

視察で確認

大津市の避難計画に大きな問題

スクリーニング場所

- 出入り口が同じで一方通行できない・・・国のマニュアルに違反
- 高島市民の避難先をスクリーニング場所に指定するなどありえない

避難経路 (国道 161・367)

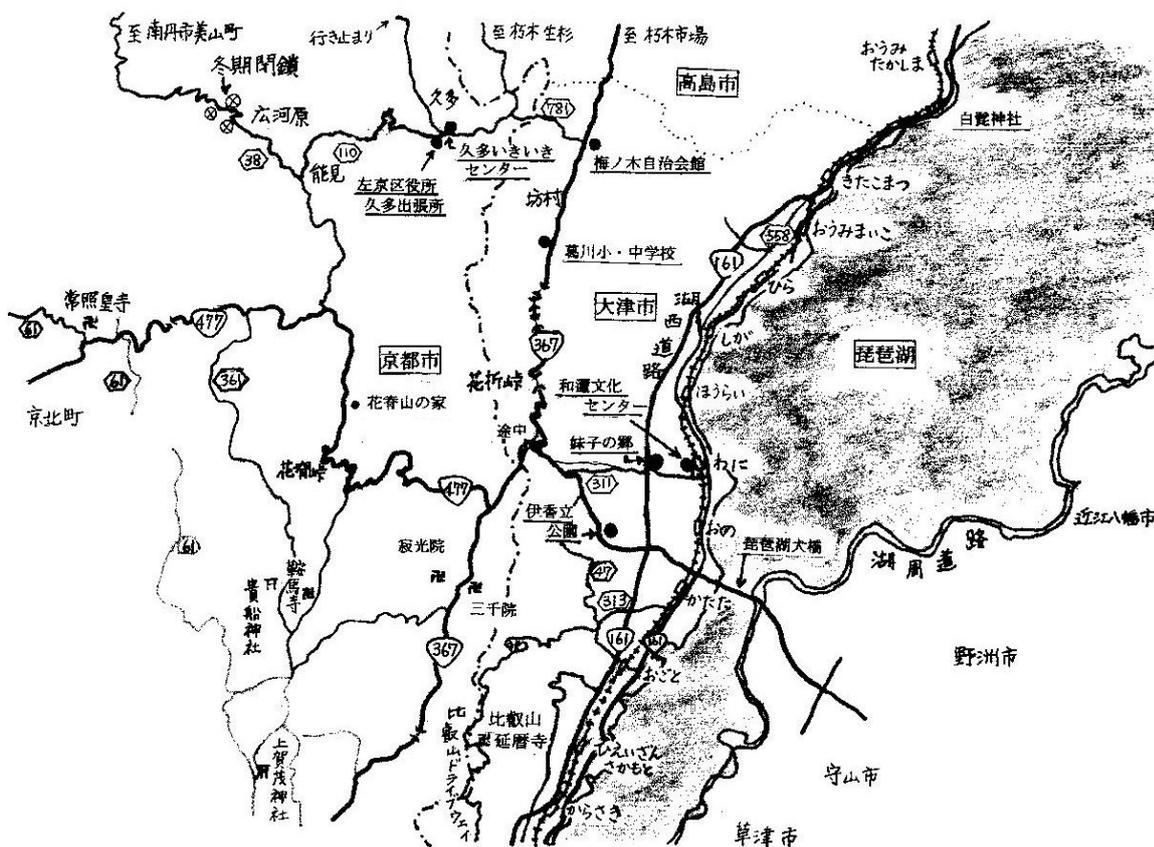
- 福井や京都の住民の避難経路と重複／土砂災害等で孤立の危険性

2017.9.12 避難計画を案ずる関西連絡会



大飯原発の再稼働が迫る中、大津市は10月29日に原子力災害避難訓練を行います。そこで、大津市の原子力災害避難計画が実効性のあるものかを検証する一考として、9月6日に避難中継所と避難時結集場所の一部及び避難経路を視察しました。避難計画を案ずる関西連絡会の呼びかけで、滋賀県各地からと大阪・兵庫から計12名が参加しました。

大津市の避難計画は、福島原発事故で全村避難を強いられた飯舘村が原発から47kmの距離であったことから独自にUPZを47km圏内としています。訓練は朝9時から12時。大飯原発で放射能漏れ事故が発生し、原発から47km圏内に屋内退避、一時移転指示が寄せられた想定です。住民は各避難時結集場所に集まり、問診を受けヨウ素剤を服用し、バスで避難



中継所の伊香立公園へ移動します。そこでスクリーニング検査・問診、避難所(伊香立中学校の体育館)で原子力災害講習会を受け、バスで各避難時集結場所に戻って解散というものです。

避難訓練の対象になっている葛川学区の避難時集結場所は各地にあり、合わせて9か所です。今回は葛川小学校と梅ノ木自治会館に行きました。

最後に、葛川地区に隣接する京都市北部のUPZ(左京区久多地区)も訪れました。

※地図と視察経路の図 <https://goo.gl/maps/bsXJTDLsW6u>

【1】3か所の避難中継所(スクリーニング場所)

大津市の避難計画では、車両や住民のスクリーニング・除染場所として、3か所の避難中継所が決まっています。(1)伊香立公園、(2)和邇文化センター、(3)道の駅妹子の郷です。大津市民の約11,200人が避難対象となっています。事故時に大津市だけで3か所のスクリーニング場所を開設するのは、職員数等からも困難と考えられ、実際には1か所のみ開設される可能性が高いでしょう。各地区の避難時集結場所からバスに乗ってスクリーニング場所に入ることとなりますが、1か所の場合は、大型バス280台(大型バスに40人が乗車したと仮定)、仮に3か所のスクリーニング場所を開設できても、単純平均でそれぞれ約100台のバスが集まることとなります。

今回、3か所のスクリーニング場所を視察しましたが、どの会場もこれだけ多くのバスや住民のスクリーニングを実施するには狭すぎると感じました。

特に、一方通行ができない点は国のマニュアルに違反しています。また、高島市民の避難先をスクリーニング場所に使うなどのもってのほかです。

以下に、3か所の場所を視察して分かった、特徴や問題点等を紹介します。

(1) 伊^{いかだち}香立公園

10月29日の避難訓練では、この伊香立公園がスクリーニング場所になります。

◆公園への出入口は1か所で、国のマニュアルに違反

汚染されたバスの入り口と、除染後のバス(あるいは乗り換えバス)が同じ出入口を使用するため、スクリーニング場所としては不適です。この出入口が同じという問題は、福井県民が使用する「あやべ球場」



でも問題になっていることです。国のマニュアルでは、入り口と出口を別にして、一方通行にするよう求めています。伊香立公園はこれに違反しています。

また、1か所の出入口の幅は狭く、公園への出入りだけで相当の渋滞も予想されます。

車両や住民の移動を一方通行とするなど、簡易除染が不要な車両、住民及び携行物品が汚染しないようにしてください。

「原子力災害時における避難退域時検査及び簡易除染マニュアル」6頁 2.4(原子力規制庁)

◆駐車場は狭すぎる。バスが何台入るかは不明、乗用車で 125 台

公園の駐車場は乗用車で 125 台となっており、バスが何台入るかは不明です。駐車場は乗用車用のラインは引かれていますが、バス用のラインは無く、駐車スペースを除けば車両が通行できる区域は狭く、バスの転回も困難です。一体どのように多くのバスが入ってくるのでしょうか。また、バスのスクリーニング・除染はどこでやるのでしょうか。

◆スクリーニング場所は屋外のフットサル競技場？ドーム型で屋根はあるが壁はなし

住民のスクリーニング場所は、基本は屋内施設です。47km 地点からわざわざに外に出た場所ですから、放射線の影響を受けてスクリーニングが不可能になるからです。

伊香立公園には、陸上競技場兼野球場、フットサル競技場、テニスコート、サッカーグラウンド（芝生）と広さは十分にあるものの、フットサル競技場を除いて全てオープンスペースです。（フットサル競技場のみ屋根有り、壁無し）。住民のスクリーニングができそうなのは、フットサル競技場ですが、ここはドーム型の屋根はありますが、壁は無いため、外気を取り込んでしまいます。これではスクリーニングには不適です。



屋内施設は管理事務棟のみで、狭い場所（10 畳くらいで、トイレが男女各 1 か所、簡易シャワー室男女各 2 か所のみ）でしたので、もちろんここでもスクリーニングはできません。

◆職員の方に話を聞いてみました

職員の方（囑託）の話では、10 月に避難訓練があることやスクリーニング場所になっていることは知っているとのことでした。しかし大津市からは、ずっと前に下見に来られただけで、訓練の打ち合わせ日時についても連絡がないということで、どこでどのようにスクリーニングや除染を行うかは何も聞いていないとのことでした。

(2) 和邇^{わに}文化センター

◆高島市民の避難所と決まっているのに、大津市民のスクリーニング場所に設定？！

和邇文化センターは、原発から 30km 圏内高島市民の避難所と既に決まっています。それにもかかわらず、同じ場所を大津市民のスクリーニング場所に指定すること自体が大きな問題です。

高島市との調整さえやっていないことの表われです。さらに、この場所は自然災害時の大津市民の避難場所にもなっています。原発事故と自然災害の複合災害が起きた場合には、いったいどうするのでしょうか。



◆和邇文化センターは住宅街の中

ここは、和邇市民体育館、和邇市民運動広場、図書館が併設されており、市民が集まりやすい場所です。実際、施設は住宅街の中にあります。汚染されたバスが集結するのですから、通常は、スクリーニング場所は住宅街から離れた場所に設置されています。文化センターがそのような場所になることについて、周囲の住民に了解は得ているのでしょうか。



駐車場の出入り口は区別されていましたが、すぐ隣です。出入り口のゲートには、「4t 以上の大型車両は侵入禁止」の看板が出ていました。「開閉ゲートのレールが損傷します」と注意書きがされていました。一台目のバスでゲートが壊れても、後続のバスは入れるのでしょうか。

◆「収容人数」538人？施設の床面積を一人3.3㎡で単純に割り算して出しているだけ

文化センターの半分強のスペースはホールで、固定式の椅子です（収容人数500人・固定席494席）。住民のスクリーニングが可能な場所としては、会議室（定員20名、63㎡）と廊下、敷地内につながっている「和邇すこやか相談所」くらいですが、どれも狭い場所です。



さらに、大津市の「原子力災害避難計画」4頁では、文化センターは538人の収容が可能となっています。「有効面積」は1776㎡で、一人当たり3.3㎡で単純に割り算しただけのようです。固定式椅子のホール面積も「有効面積」に入れている可能性があります。しかしこれでは、横になることもできません。あまりにも形式的でおざなりな計画です。高島市民の避難所としても使用できるのか、根本的な問題です。大津市は避難計画の14～21頁で「指定避難所一覧」をあげて

いますが、ほとんどの施設で、この単純な割り算で「収容人数」を出しています。

◆職員の方に話を聞いてみました

文化センターの職員の方に話を聞くと、スクリーニング場所になることは知っていました。ただ、「市の職員が派遣されてきて、自分たちはその指示に従うだけ」という感じで、施設としてスクリーニングへの対応や原子力防災についての計画等はないようでした。

(3) 道の駅 妹子の郷

◆福井県民の避難経路（国道161）上にあるため、大混乱が予想される

ここは、湖西道路（国道161）唯一の道の駅で、和邇インターに併設されています。湖西道路は福井県民の避



難経路にもなっているため、和邇インターでの出入りがあれば大混乱になることが予想されます。

大津市の計画では、このスクリーニング場所を出た後に、どの経路を通過して、どの避難所に行くのか具体的に決まっています。和邇インターと一般道を結ぶ道が狭く、一般道（琵琶湖岸）に出る道の1つが、もう一つのスクリーニングポイントの和邇文化センターに入る道と共有になるため、これも渋滞・混乱が予想されます。

駐車場はわりと広いのですが、それでも「大型：28台 普通車：87台」となっています。スクリーニング場所としては不十分です。



◆住民のスクリーニング場所は、手狭な「休憩所」？

建物は休憩所と観光情報提供施設で1棟、物産店・レストラン・コンビニで1棟の2つだけで、小ぢんまりしたところです。住民のスクリーニングが可能な場所は「休憩所」くらいですが、あまりにも狭すぎます。

【2】避難時集結場所

10月29日の避難訓練には、葛川^{かつらがわ}学区と伊香立途中町の住民が参加することになっています。住民は避難時集結場所に集まり、そこからバスでスクリーニング場所に向かいます。

今回は2か所の避難時集結場所を視察しました。大津市内といっても、葛川地区は市中心部から離れ、トンネルをいくつか抜けた山間の地域です。10数件の民家で一つの集落をなしており、隣の集落まではかなりの距離がある地域です。

（1）避難時集結場所：葛川小・中学校体育館

ここは葛川学区の住民267名の避難時集結場所の1つです。今回訪ねた葛川小・中学校は、国道367号から橋を渡ってすぐ左手にあります。

生徒数は小学生14人、中学生11人という小規模校です。同じ敷地内に保育園がありましたが、園児がおらず休園中とのこと。現在、来年度の小学校入学予定者はいないそうです。

大津市と京都市の生徒が共に通い、大津市初の小規模特認校制度が来年度からスタートします。教師は15名で、中学校の常勤6人、非常勤(週1回等)5人等です。



◆10月の避難訓練は知っているが、場所を貸すだけ。安定ヨウ素剤は備蓄していない

突然の訪問でしたが、校長先生（小・中学校の兼任）から話を聞くことができました。

10月29日に原子力防災の避難訓練があることは知っているが、集合場所として使うだけで、学校は参加しないとのことでした。学校としては、一般的な避難訓練はしているが、原子力防災に対する取り組みはないそうです。学校には安定ヨウ素剤は備蓄されておらず、「2kmほど離れた坊村の診療所に置いているのではないかと思う」と話されていました。

6月に私たちが大津市に申入れをしたときに聞いた『すこやか相談所』近くの薬局に保管を任せている」ことを伝えると、一番近いのは和邇ということでした。和邇のすこやか相談所は和邇文化センターの隣にあります。もし和邇から取り寄せるなら通常でも片道1時間ぐらいかかります。

万が一の場合には安定ヨウ素剤が必要だと感じられているようでしたが、学校での備蓄の必要性までは考えてはいないようでした。緊急時は、親に連絡を取って子どもを引き渡すことになっているそうです。

しかし、ここは住民も含めた集合場所であり、子どものことを考えればなお一層、備蓄が必要なはずで。同じ滋賀県内の高島市では、避難時集結場所や学校等で備蓄しています。大津市は、どこで安定ヨウ素剤を配布する計画なのでしょう。

◆自然条件からも高齢者が多いことから避難は困難を極める

この地域は、冬は雪が積もり、急斜面の山は土砂崩れが過去に何度も起きている地域です。土砂崩れ等で孤立する可能性もあります。避難時の要配慮者(高齢者、障がい者、乳幼児など)は住民の35%を占めており、自然・社会条件双方から、避難は困難を極めると感じました。

葛川小・中学校のホームページ <http://www.otsu.ed.jp/ktr-e/new/adiary.cgi>

(2) 避難時集結場所：梅ノ木自治会館

葛川小・中学校から国道367号を北に進むと、同学区内に梅ノ木自治会館があります。ここも10月の訓練で避難時集結場所として使用されることになっています。



◆これまでも土砂災害で通行止めになった地域



梅ノ木自治会館は、普段はほとんど使われていない感じの平屋の建物でした。訪れた時は誰もいませんでした。

国道367号線の梅ノ木バス停横にあります。国道367号は自然災害にも弱く、これまで何度も土砂崩れで通行止めになっています。今回の視察でも、梅ノ木自治会館近くの斜面をコンクリートで覆う補強工事の最中でした。ここも自然災害が重なれば避難は困難です。

目の前には山を削る採石場、そして国道367と並走している清流の安曇川、それに合流する川と岩場の地域でした。

【3】大飯原発から 30km 圏内の京都市左京区久多地区の視察

大津市の視察を終えて、隣の京都市左京区久多地区を訪問しました。こちらも報告します。

梅ノ木地区から安曇川を渡って西に少し行けば、京都市最北部の久多地区です。大飯原発から約 30km 圏内で、避難の対象となっています。久多キャンプ場を過ぎた三叉路から久多川に沿って西に進むと京都市に入ります。ここから道がやや広くなりますが、その先は対面通行の狭隘な道が続きます。車が接触したのか、ガードレールも随所で大きくへこんでいました。国道 367→県道 781→府道 110 のルートです。民家もまばらになっていきます。



◆避難時集結場所：久多いきいきセンター

この地区の避難時集結場所は久多いきいきセンターで、高齢者の健康づくりやレクリエーション等の日帰り施設です。職員さんは、避難計画の具体的なことは聞いていないとのことでした。事故になれば逃げるし戻って来られないだろうが、高齢者は残るといふ人もあるでしょうと話されていました。



すぐそばに診療所がありますが、内科は週 1 回、歯科は月 2 回だけ医師が通って来るそうです。

向かいにある、廃校になった久多中学校のグラウンドには放射線測定器がありました。

センターから久多川沿いに集落があります。京都市の防災マップにあるように、この辺りは急傾斜地も複数箇所あります。狭い道で、災害時に避難できるのだろうかと感じました。

◆京都市左京区役所の久多出張所 避難計画は具体的に決まっていない



センターの近くに、久多出張所があります。所長に話を聞きました。

避難先は具体的に決まっていないとのこと。安定ヨウ素剤はこの出張所に置いてあるそうですが、医師等が京都市内から来て配布するか、場所も確定していない避難先で配布するのか、まだ決まっていないとのことでした。地区の「自主防災組織がしっかりしている」と強調して

いましたが、自然災害と原発事故では違います。

話の途中では、久多いきいきセンターに集合した後、バスか自家用車で花背山の家に行き、長期化すれば大原小中学校に行くかもしれないとも言われていました。結局、具体的なこと

は決まっていないとのことでした。

避難は葛川方面（国道 367 号）に出るのが基本のようです。しかし、大津市民や高島市民の避難経路と重なってしまいます。

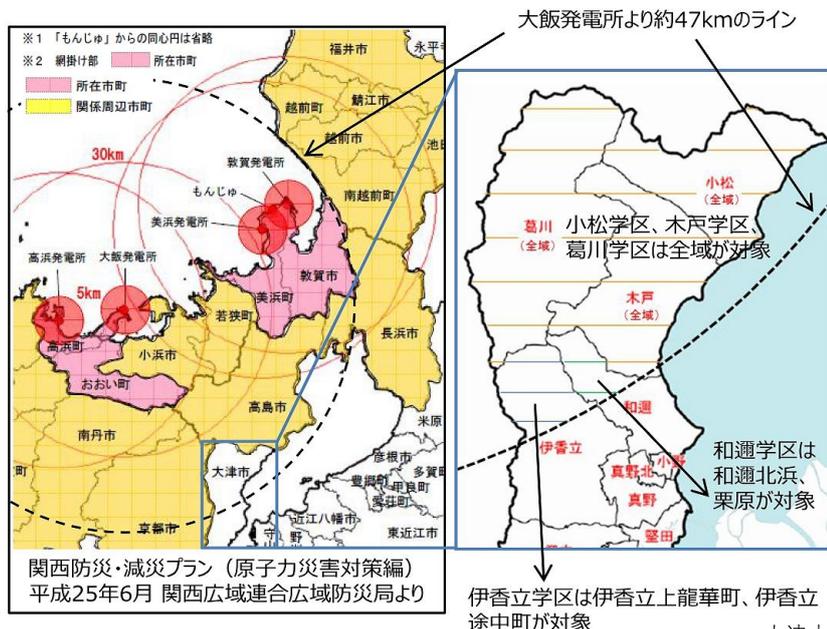
久多の子どもたちは、学区は大原（三千院のある）になるそうですが、大津市の葛川小・中学校にマイクロバスで通っており（20 分程か）、現在は、小学生 2 名、中学生 2 名が通学しているそうです。

【4】視察を終えて

今回の視察で感じたのは、どんな避難計画でも現地を詳細に視察しないと絶対に作れないということです。広さが何㎡あるとか、何台置ける駐車場だとかいう数字を調べるのではなく、現地に向いて、ここに何人の人が入れるか、何をどのような流れで行うのかを、実際に現地を見ながら想定することが重要だと思いました。今回の視察で大津市の避難計画の問題点がいくつか見つかりました。10 月 29 日の避難訓練では、それらがどのようにクリアされるのか、注目したいと思います。

住民の命と安全を最優先に考えず、形だけの避難計画や防災訓練で再稼働に進むことは許されません。

資料 「大津市原子力災害避難計画」より



大津市の避難対象人口

学区	人口
小松	4,322
木戸	4,727
葛川	267
和邇	1,568
伊香立	321
計	11,205

